

## 「仏教典籍（漢文資料）の調べ方」

財団法人 東洋文庫  
會谷 佳光

### 研修の概要

漢文で書かれた仏教典籍と検索ツールの紹介

中国で翻訳された経典

中国人が著述・編集した経典

上記の朝鮮・日本における覆刻本

### 〈仏教研究の入門書〉

大谷大学仏教学会編『仏教学への道しるべ』（文栄堂書店、1980年2月）

平川彰編『仏教研究入門』（大蔵出版、1984年6月）

岡部和雄、田中良昭編『中国仏教研究入門』（大蔵出版、2006年12月）

### 1. 仏教の誕生

開祖 ゴータマ・シッダールタ

釈迦 サンスクリット語 Śākya の音写 ゴータマ・シッダールタの属していた種族の名

牟尼 サンスクリット語 muni の音写 聖者・賢者

→ 釈迦牟尼 釈迦族出身の聖者

仏陀 サンスクリット語 Buddha の音写 覺者・悟った人

釈迦は、35歳の時、ブッダガヤーのアシュヴァッタ樹（無花果樹）のもとで沈思瞑想して大悟

釈迦の生卒年 前463年～前383年頃

一説に前566年～前486年頃 南方伝承に前624年～前544年頃

〈仏伝〉

『仏所行讃』5巻 大正蔵 no. 192

『方広大莊嚴經』12巻 大正蔵 no.187

『過去現在因果經』4巻 大正蔵 no.189

『仏本行集經』60巻 大正蔵 no.190

『大般涅槃經』3巻 大正蔵 no.7

梁・僧祐『釈迦譜』5巻 大正蔵 no.2040

三仏忌・三仏会

仏生誕日（仏降誕日） 4月8日＝釈迦の誕生日 灌仏会（降誕会） 花祭り

仏成道日 12月8日＝釈迦が悟りを開いたとされる日 成道会

仏涅槃日 2月15日＝釈迦が入滅した日 涅槃会

## 2. 仏教典籍の登場

仏典結集 仏陀の入滅後、大勢の比丘が集まって開催された聖典編纂会議

仏陀の教え（仏説・仏語） 記憶暗唱に頼る 散佚の可能性あり

第1回結集 仏陀の滅後 ラージャグリハ（王舎城）郊外 五百結集

座長：摩訶迦葉 経（教法）担当：阿難陀 律（戒律）担当：優波離

第2回結集 仏滅後 100年頃 戒律上の異議 ヴァイシャーリー（毘舍離） 七百結集

第3回結集 仏滅後 200年 アショーカ王（阿育王 在位前 268～前 232） パータリプトラ（華氏城） 千人結集

第4回結集 2世紀頃 イラン系クシャーナ朝カニシカ王 カシミールの比丘 500人

## 3. 小乗仏教と大乘仏教

大乘：サンスクリット語で「大きな乗物」の意 小乗：「劣った乗物」の意

仏教修行者の種別

声聞 仏弟子 集団生活をする出家者

独覚（縁覚） 一人山野で縁起を悟り、人に教えを説くことなく生涯を終える出家者

菩薩 仏陀になることを目指す在家および出家の修行者

大乘仏教の発生

あらゆる衆生を乗せて悟りに導く大きな乗物（教え）

西暦紀元前後インドで自利よりも利他を標榜する仏教の革新運動として発生

大乘仏教徒 「菩薩」・「大乘」と自称 声聞・縁覚を自利と批判 「小乗」と貶める

〈主な大乘経典〉

『般若経』・『維摩経』・『法華経』・『華嚴経』・『無量寿経』などの初期大乘経典（1世紀以降）

竜樹『中論』（空の思想）など（3世紀）

『勝鬘経』・『涅槃経』などの如来蔵経典、『解深密経』・『大乘阿毘達磨経』の阿頼耶識経典（4世紀）

無着・世親の瑜伽行派、『楞伽経』・『大乘密厳経』（5世紀）

密教の発達（6世紀頃）

『大日経』・『金剛頂経』などの密教教典（7世紀）

## 4. 仏教典籍の種別と三蔵

経 スートラ sūtra 仏陀の教説

律 ヴィナヤ vinaya 戒律

論 シャーストラ śāstra インドの諸師による経・律（仏説・仏制）の注釈書・教義書

→ 三蔵 仏教典籍の総称 トリピタカ tripitaka 3つのかご

三蔵法師 経蔵・律蔵・論蔵の三蔵に精通した僧侶 仏教典籍の翻訳者

\* 『西遊記』の玄奘三蔵だけではない。

## 5. 仏教典籍の漢訳

訳経 サンスクリット語・パーリ語などの仏教典籍を漢語に翻訳すること

後漢～元の千年以上続く 原典はインド・西域・南海地方から伝来

漢訳年代のわかる最古の経典 『諸仏要集経』 西晋・元康2年(292)翻訳 同6年(296)書写

大谷探検隊が中央アジアで発見 所在不明

中国思想・用語の取り込み

(サンスクリット語)	(音写)	(意訳)	(意訳語の由来)
bodhi	菩提	道	老荘思想
nirvāṇa	涅槃	無為	老荘思想
buddha	仏陀	覚者・大覚	『莊子』齊物論篇
arhat	阿羅漢	真人	『莊子』大宗師篇
śramaṇa	沙門・桑門	道人	『莊子』天下篇

訳経の体制 皇帝の庇護 役割分担 組織的

唐代以後 訳場（訳経道場）の大規模化

宋代 国家機関「訳経院」

訳場九位の制定（訳主・証義・証文・書写・筆受・綴文・参訳・刊定・潤文）

〈参考資料〉

小野玄妙「経典伝訳史」（『仏書解説大辞典』別巻・仏典総論（大東出版社、1936年2月）所収）

辛嶋静志「漢訳仏典の漢語と音写語の問題」（『東アジア社会と仏教文化』（春秋社、1996年2月）所収）

### 〈仏教漢文入門書〉

金岡照光著『仏教漢文の読み方』（春秋社、1978年10月）

### 〈仏教語辞典〉

有賀要延編『仏教語読み方辞典』（国書刊行会、1977年9月；1991年6月縮刷版）

中村元著『仏教語大辞典』縮刷版（東京書籍、1981年5月）

望月信亨編；塚本善隆 [ほか] 編『望月仏教大辞典』全10冊（世界聖典刊行協会、1993-1997年増訂10版）

中村元 [ほか] 編『岩波仏教辞典』第2版（岩波書店、2002年10月）

織田得能著；大佛衛，和田徹城，宮坂喆宗補修『織田仏教大辞典』補訂縮刷版（大蔵出版、2005年3月）

## 6. 中国人による仏教典籍の著述

中国人による仏教典籍の作成

漢訳仏典の注釈・抜粋、著述など 5世紀中頃（劉宋・北魏）

〈参考資料〉

船山徹「漢語仏典：その初期の成立状況をめぐって」（京大人文研漢籍セミナー1『漢籍はおもしろい』（研文出版、2008年3月）所収）

【注釈】 漢訳仏典の注釈 注・疏・注疏・義疏・章疏・玄義など

後秦・僧肇『注維摩詰経』10巻 大正蔵 no.1775

隋・智顛説、隋・灌頂記『観音玄義』2巻 大正蔵 no.1726

唐・李通玄『新華嚴経論』40巻 大正蔵 no.1739

【高僧伝】 徳の高い僧侶の伝記

梁・慧皎『高僧伝』14巻 大正蔵 no.2059

唐・道宣『続高僧伝』30巻 大正蔵 no.2060

宋・贊寧『宋高僧伝』30巻 大正蔵 no.2061

明・如惲『大明高僧伝』8巻 大正蔵 no.2062 \*以上、「四朝高僧伝」と総称

『神僧伝』9巻 大正蔵 no.2063

明・明河『補統高僧伝』26巻 卍字統藏経・乙第7套  
諭謙『新統高僧伝』65巻（北洋印刷局、1923年）

#### 〈僧侶について調べたい時に役立つ参考資料〉

姜亮夫纂定、陶秋英校『歴代人物年里碑伝総表』（香港中華書局、1937年）  
陳垣『积氏疑年録』（中華書局、1964年3月）  
明復編『中国仏学人名辞典：附諸宗師資伝承系統表』（中華書局、1988年1月）  
震華『中国仏教人名大辞典』（上海辞書出版社、1999年11月）  
李国玲編著『宋僧録』2巻（中国線装書局、2001年12月）  
長谷部幽蹊編著・黄檗文化研究所編集『明清仏教研究資料 僧伝之部』（黄檗山萬福寺文華殿、2008年11月）

#### 〈中国の寺志を集めたもの〉

白化文・張智主編『中国仏寺志叢刊』全130冊（広陵書社、2006年1月）  
白化文・劉永明・張智主編『中国仏寺志叢刊続編』全10冊（江蘇広陵古籍刻印社、2001年9月）

#### 〈地方志〉

地理志・建置志・食貨志・官師志・選挙志・人物志・芸文志など 建置志の寺観・人物志の道釈などに仏教関連資料あり

『中国地方志聯合目録』（中華書局、1985年1月） 東洋文庫の地方志コレクション

#### 【総集】 漢籍の集部総集類に相当

護法を目的 仏教批判に対する反論・仏教を顕彰する文章を集めたもの

梁・僧祐『弘明集』14巻 大正蔵 no.2102  
唐・道宣『広弘明集』30巻 大正蔵 no.2103

#### 【類書】 テーマごとに様々な文献から関連記事を収集

梁・武帝の仏教版類書の編纂 『衆経要抄』88巻・『義林』80巻・『出要律儀』20巻など

梁・宝唱『経律異相』55巻 大正蔵 no.2121  
唐・道世『法苑珠林』100巻 大正蔵 no.2122

#### 【音義】 難解な漢字の字形・字音・字義などを解説 仏教では南北朝時代に作成

唐・玄奘『一切経音義』25巻 縮刷蔵経・為帙・音義部、卍字蔵経35帙所収  
唐・慧琳『一切経音義』100巻 大正蔵 no.2128  
宋・希麟『統一切経音義』10巻 大正蔵 no.2129

#### 【禅籍】 「不立文字、教外別伝、直指人心、見性成佛」

「不立文字」 ×文字・文章は不要

○特定の経典をよりどころとしない

→「文字による教えの外に、自己に本来具わっている仏心に目覚め、その仏心の自覚を師から弟子へと伝えていく」の意。禅籍の存在を否定するものではない。

禅籍 灯史・語録・偈頌など 初期禅宗文献 伝存の文献中になし 敦煌文献中から再発見

灯史 禅宗の伝灯（伝承の歴史）を記したもの

五代・静筠二禅師『祖堂集』20巻（『禅学叢書』4（中文出版社、1972年）所収）

宋・道原『景德伝灯録』30巻 大正蔵 no.2076  
宋・李遵勗『天聖広灯録』30巻 卍字統蔵経・乙第8套  
宋・惟白『建中靖国続灯録』30巻 卍字統蔵経・乙第9套  
宋・悟明『宗門聯灯会要』30巻 卍字統蔵経・乙第9套  
宋・正受『嘉泰普灯録』30巻 卍字統蔵経・乙第10套 \*『景德伝灯録』以下5部 「五灯録」と総称  
宋・普濟『五灯会元』20巻 卍字統蔵経・乙第11套

**語録** 禅僧の説法・問答などを記したもの

唐・法海集『六祖大師法宝壇経』1巻 大正蔵 no.2007・2008 \*六祖慧能  
唐・義玄『鎮州臨濟慧照禅師語録』 大正蔵 no.1985 \*臨濟宗の開祖  
唐・良价『瑞州洞山良价禅師語録』 大正蔵 no.1986 \*曹洞宗の開祖  
宋・智愚『虚堂和尚語録』10巻 大正蔵 no.2000

**偈頌** 悟りの境地や修道の喜び、修行の用心や心構えなどを韻文で表現したもの

唐・玄覺『永嘉証道歌』1巻 大正蔵 no.2014

**〈禅籍について調べたい時に役立つ参考資料〉**

『禅籍目録』（駒沢大学図書館、1928年）

駒沢大学図書館編『新纂禅籍目録』全2冊（駒沢大学図書館、1962-1964年）

柳田聖山「禅籍解題」・「中国禅宗史系図」（西谷啓治、柳田聖山編『禅家語録』（『世界古典文学全集』第36巻B（筑摩書房、1984年3月））所収）

\*花園大学国際禅学研究所ホームページ [http://iriz.hanazono.ac.jp/frame/data\\_f00.html](http://iriz.hanazono.ac.jp/frame/data_f00.html) で、「禅籍解題」全解題の閲覧可能。

柳田聖山「語録の歴史：禅文献の成立史的研究」（『東方学報』京都第57冊、1985年3月）

椎名宏雄著『宋元版禅籍の研究』（大東出版社、1993年8月）

禅学大辞典編纂所編『新版禅学大辞典』（大修館書店、1996年）

入矢義高監修；古賀英彦編著『禅語辞典』（思文閣出版、1997年6月4版）

伊吹敦『禅の歴史』（法蔵館、2001年11月）

田中良昭〔編〕『禅学研究入門』第2版（大東出版社、2006年12月）

**【仏教史書】** 宋代以降、禅宗灯史の編纂に触発 各宗僧侶が仏教史書を編纂

宋・祖琇『隆興編年通論』29巻 卍字統蔵経・乙第3套

宋・宗鑑『釈門正統』8巻 卍字統蔵経・乙第3套

宋・本覺『釈氏通鑑』12巻 卍字統蔵経・乙第4套

宋・志磐『仏祖統紀』54巻 大正蔵 no.2035

元・念常『仏祖歴代通載』22巻 大正蔵 no.2036

元・覺岸『釈氏稽古略』4巻 大正蔵 no.2037

**【偽経】** 中国において經典の形式を借りて自らの思想や仏法・禅法を説いたもの 「疑経」

価値 難解な仏教教理に縁のない庶民に非常に大きな教化力を持つ

庶民が仏教に何を求めたかを知る上で貴重な資料

全盛期 唐・開元時 406部 1074巻

伝承 大蔵経から排除 →伝存文献中に伝わらず 敦煌文献中から再発見

伝存文献のうち近年偽経と判断されたもの

馬鳴造、梁・真谛訳『大乘起信論』1巻 大正蔵 no.1666 \*望月信亨説

唐・実叉難陀訳『大乘起信論』2巻 大正蔵 no.1667 \*望月信亨説

唐・仏陀多羅訳『大方広円覚修多羅了義経』1巻 大正蔵 no.0842

〈参考資料〉

牧田諦亮著『疑経研究』（京都大学人文科学研究所、1976年3月）

〈個々の仏教典籍について知りたい場合に役立つ参考資料〉

### 序跋彙編

許明編著『中国仏教経論序跋記集』全5冊（上海辞書出版社、2002年9月）

\*東漢末～清末の仏教典籍の序跋2,500余篇 時代別・作者別（1136名）に収録

### 近代以前の解題目録

宋・惟白『大蔵経綱目指要録』13巻 昭和法宝 no.37

宋・王古『大蔵聖教法宝標目』10巻 昭和法宝 no.38

明・寂暁『大明釈教彙目義門』41巻（『四庫未収書輯刊』第3輯（北京出版社、2000年）所収）

明・智旭『閱蔵知津』44巻 昭和法宝 no.74

### 近代以後の解題事典

小野玄妙編『仏書解説大辞典』全12冊（大東出版社、1935-1937年） \*1999年6月縮刷版全1冊

陳垣『中国仏教史概論』（中華書局、1962年11月）

水野弘元【ほか】編『仏典解題事典』（春秋社、1977年9月）

鎌田茂雄【ほか】編『大蔵経全解説大事典』（雄山閣出版、1998年8月）

李際寧著『中国版本文化叢書：仏教版本』（江蘇古籍出版社、2002年12月）

鎌田茂雄総監修『一切経解題辞典』（大東出版社、2002年3月）

## 7. 仏教典籍目録の編纂

経録 仏教典籍を収集・分類した目録

契機 仏教典籍の増加 → 仏教典籍の散佚、翻訳者・翻訳年代の喪失、偽経の出現などの問題

→ 仏教典籍を収集して体系的に整理する必要性高まる

嚆矢 東晋・道安撰『綜理衆経目録』 現存せず

内容 経名、巻数、紙数、訳者、訳出時期、単訳・重訳（翻訳回数）の別、有本・欠本の別、真経・偽経の別、全訳・抄訳の別、大蔵経内での分類先（大小乗・経律論）など

代録 各時代の仏教典籍を編年的に配列

標準入蔵録 大小乗・経律論などの分類を主眼 \*入蔵 大蔵経に加えること

現蔵入蔵録 特定寺院の経蔵に収められた現存経典を目録化

〈現存する主な経録〉

梁・僧祐撰『出三蔵記集』15巻 大正蔵 no.2145

隋・法経等撰『衆経目録』7巻 大正蔵 no.2146

隋・費長房撰『歴代三宝紀』15巻 大正蔵 no.2034

隋・彦琮撰『衆経目録』5巻 大正蔵 no.2147

唐・静泰撰『衆経目録』5巻 大正蔵 no.2148

唐・道宣撰『大唐内典録』10巻 大正蔵 no.2149

唐・靖邁撰『古今訳経図紀』4巻 大正蔵 no.2151

唐・明佺等撰『大周刊定衆經目錄』15卷 大正蔵 no.2153  
唐・智昇撰『開元積教録』20卷 大正蔵 no.2154  
唐・円照撰『貞元新定積教目錄』30卷 大正蔵 no.2157  
宋・趙安仁撰『大中祥符法宝録』21卷 中華大蔵経 no.1675  
宋・惟浄撰『天聖積教録』3卷 中華大蔵経 no.1670  
宋・宋綬撰『景祐新修法宝録』21卷 中華大蔵経 no.1676  
元・慶吉祥等撰『至元法宝勘同総録』10卷 昭和法宝 no.25

『開元積教録』巻10「叙列古今諸家目錄」 『開元積教録』以前の諸経録の書名・巻数・内容構成などを列記  
梁・阮孝緒「七録序」「古今書最」（『広弘明集』巻3所引） 一般的な目録の中に仏典がどのように受容されたか  
〈参考資料〉

姚名達撰、巖佐之導読『中国目録学史』（上海古籍出版社、2002年6月）「宗教目録篇」

\*原本は1938年商務印書館刊

林屋友次郎著『経録研究』（岩波書店、1941年1月）

川口義照著『中国仏教における経録研究』（法蔵館、2000年12月）

## 8. 仏教典籍の分類法と大蔵経入蔵典籍の確定

『開元積教録』 唐・開元18年(730)智昇編纂

代録・分類整理目録（標準入蔵録・現蔵入蔵録）の機能を兼ね備えた総合的な目録

入蔵録1076部5048巻 →以後、大蔵経書写・刊行の基準

収録経典 経・律・論、西土聖賢の著述・伝記、中国人作成の目録・伝記・注釈・儀軌など

分類法

1. 大乘入蔵録： 大乘経・大乘律・大乘論

大乘経→重単合訳・単訳

重単合訳→般若・宝積・大集・華嚴・涅槃・五大部外諸重訳

2. 小乗入蔵録： 小乗経・小乗律・小乗論

小乗経→重単合訳・単訳

3. 賢聖集： 梵本翻訳・此方撰集

後世への影響 宋元明清の各種大蔵経は、『開元積教録』入蔵録を若干改変し、追加入蔵を行ったのみ。追加入蔵には皇帝の勅許が必要。

蔵外 大蔵経に入蔵されていない経典 → 散佚しやすい

## 9. 大蔵経の流伝

### a. 大蔵経の書写

北魏・太和3年(479) 馮晋国 一切経1,464巻を10セット書写

国営の写経所の設置

〈参考資料〉

竺沙雅章「漢訳大蔵経の歴史」（竺沙雅章著『宋元国仏教文化史研究』（汲古書院、2000年8月）所収）

方広鋁著『中国写本大蔵経研究』（上海古籍出版社、2006年12月）

\*『仏教大蔵経史：8-10世紀』（中国社会科学出版社、1991年3月）の第2次増補修訂本

〈敦煌文献・敦煌文書・敦煌写本〉

20世紀初頭 敦煌（甘肅省西辺）莫高窟千仏洞 大量の古文書発見

5世紀～11世紀初頭書写 総数5万点近い 約9割は仏教典籍

唐代の長安写經の系譜に連なるもの多し

〈主な所蔵機関とコレクション〉

イギリス大英図書館 (スタイン・コレクション)

フランス国立図書館 (ペリオ・コレクション)

中国国家図書館 (北京・コレクション、大谷・コレクションの大部分)

ロシア科学アカデミー・サンクトペテルブルク支局・東洋学研究所(オルデンブルク・コレクション)

台湾国家図書館 (台湾・コレクション)

国際敦煌プロジェクト：シルクロード オンライン <http://idp.afc.ryukoku.ac.jp/>

敦煌・シルクロード東部の古代遺跡発掘の写本・絵画・織物・遺物の画像・情報をネット公開

目録 敦煌研究院編『敦煌遺書總目索引新編』(中華書局、2000年7月)

景印 黄永武主編『敦煌宝蔵』全140冊(新文豊出版公司、1986年8月)

方広鋁主編『英国国家図書館敦煌遺書(漢文部分)』1～4(広西師範大学出版社、2011年～)

中国国家図書館『国家図書館蔵敦煌遺書』1～142(国家図書館出版社、2005年～)

『俄蔵敦煌文献』全17冊(上海古籍出版社、1992～2001年)

『国立中央図書館蔵敦煌卷子』(石門図書公司、1976年)

〈参考資料〉

『敦煌石窟全集』1(文物出版社、2011年8月～)

## b. 石刻大蔵経

### 房山石経

末法の世の到来に備えて、仏教典籍を石版に刻して石経山(北京市房山区)の石室に封蔵

隋・静琬刻石開始 同地の有力者・信者の支援 遼・金代一応完成 明末まで補刻続く

底本 ①唐の開元大蔵経 唐・玄宗が雲居寺に下賜 写本

②遼の契丹版蔵経 1031～1054年頃開版 全579帙 残葉数点のみ伝存

景印 中国仏教協会・中国仏教図書文物館編『房山石経』全30冊(華夏出版社、2000年5月)

〈参考資料〉

陳燕珠著『新編補正房山石経題記彙編』(覺苑出版社、1995年6月)

氣賀澤保規編『中国仏教石経の研究：房山雲居寺石経を中心に』(京都大学学術出版会、1996年3月)

## c. 刊刻大蔵経

〈参考資料〉

小野玄妙「大蔵経概説」(『仏書解説大辞典』別巻・仏典総論(大東出版社、1936年2月)所収)

大蔵会編『大蔵経：成立と変遷』(百華苑、1964年11月)

長谷部幽暎『明清仏教研究資料 文献之部』(1987年11月)



九洞三八六

図1 房山石経



椎名宏雄『宋元版禅籍の研究』（大東出版社、1993年8月）

＊特に「第二章 宋元代の大蔵経と禅籍」・「第三章 明代以降の大蔵経と宋元版禅籍」

野沢佳美『明代大蔵経史の研究』（汲古書院、1998年10月）

井上宗雄 [ほか] 編『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、1999年）

李富華・何梅著『漢文仏教大蔵経研究』（宗教文化出版社、2003年12月）

### 【宋元代の刊刻大蔵経】

最初の刊刻大蔵経 官版大蔵経

#### 〈開宝蔵〉

宋・太祖開宝4年(971) 張從信を成都に派遣・開版 太宗太平興国2年(977)完成

印刷場所 開封の太平興国寺に創建した印経院

総数 653函6620余巻

呼称 開宝蔵・蜀本大蔵経

体裁 卷子本 版式毎版23行 行14字 千字文帙号『開元釈教録略出』より一字繰り上げ

版本総数 約13万枚

頒布 宋王朝 贈答品として近隣諸国に下賜

太平興国8年(983) 東大寺僧奄然に481函5048巻新訳経典40巻などを下賜

所蔵 現存13巻(大半残巻) 南禅寺・書道博物館各1巻

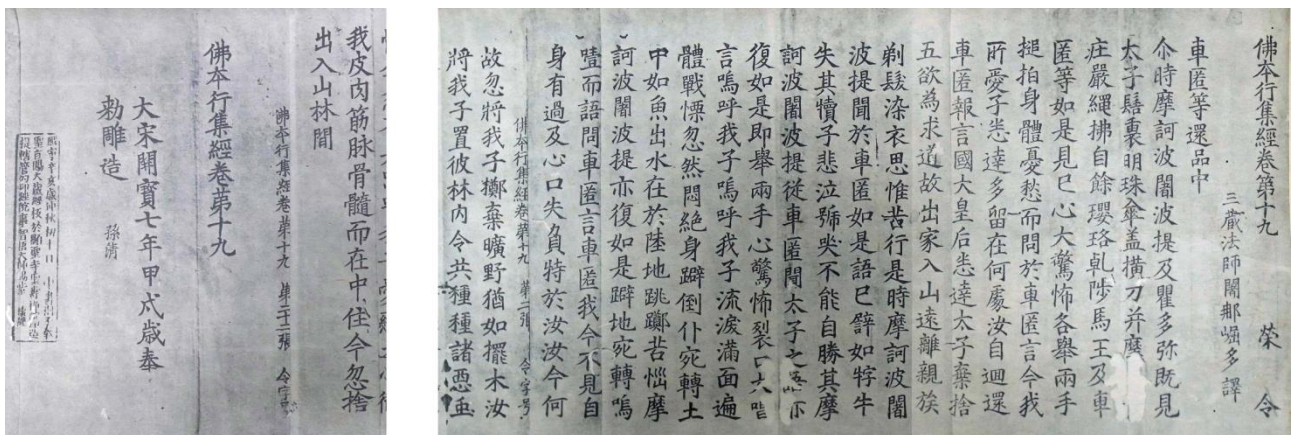


図2 開宝蔵

#### 〈高麗版蔵経〉

初彫本 高麗顕宗2年(1011) 契丹の退却・国威発揚を祈念 大蔵経開版 宣宗4年(1087)完成

総数 570函5124巻

体裁 卷子本 版式一紙23行 行14字

底本 開宝蔵 高麗の刊記なし 開宝蔵の挿図・訳場列位等あり 開宝蔵と函次など異なる

→単なる覆刻ではない。

続蔵 高麗僧義天 仏典章疏1010部4740巻入手 『新編諸宗教蔵総録』3巻(大正蔵no.2184) 編纂

大興王寺に教蔵都監設置・開版

所蔵 伝存まれ 南禅寺(一部分) 韓国約150巻発見

版本 正蔵大邱符仁寺 続蔵大興王寺に保管 高宗18年(1231) 蒙古軍侵略で焼失



図 3 高麗初彫本

再彫本 高宗 江華島遷都 仏力による蒙古軍の退散を祈念 大蔵都監設置・蔵経再彫  
 高宗 23 年(1236)~38 年(1251) 完成  
 総数 1511 部 6802 卷 一説に 1524 部 6558 卷  
 体裁 卷子本 版式一紙 23 行 行 14 字  
 版本 81258 枚 大韓民国慶尚道陝川郡伽耶山の海印寺に現存  
 呼称 高麗再彫本・高麗八万大蔵経・海印寺一切経  
 底本 高麗僧守其等 初彫本・開宝蔵・契丹版蔵経・古写の蔵経などと校勘 →善本として名高い  
 『新開大蔵校正別録』 30 卷  
 所蔵 増上寺・大谷大学など  
 目録 『大蔵目録』 3 卷 昭和法宝 no.22  
 『縁山三大蔵目録』 3 卷 昭和法宝 no.21  
 景印 『高麗大蔵経』 全 48 冊 (東国大学校、1957~1976 年)  
 『高麗大蔵経』 全 80 冊 (中国線装書局、2004 年 5 月) \*他に新文豊出版公司本全 48 冊など  
 データベース 高麗大蔵経 Knowledgebase [http://kb.sutra.re.kr/ritk\\_eng/index.do](http://kb.sutra.re.kr/ritk_eng/index.do)

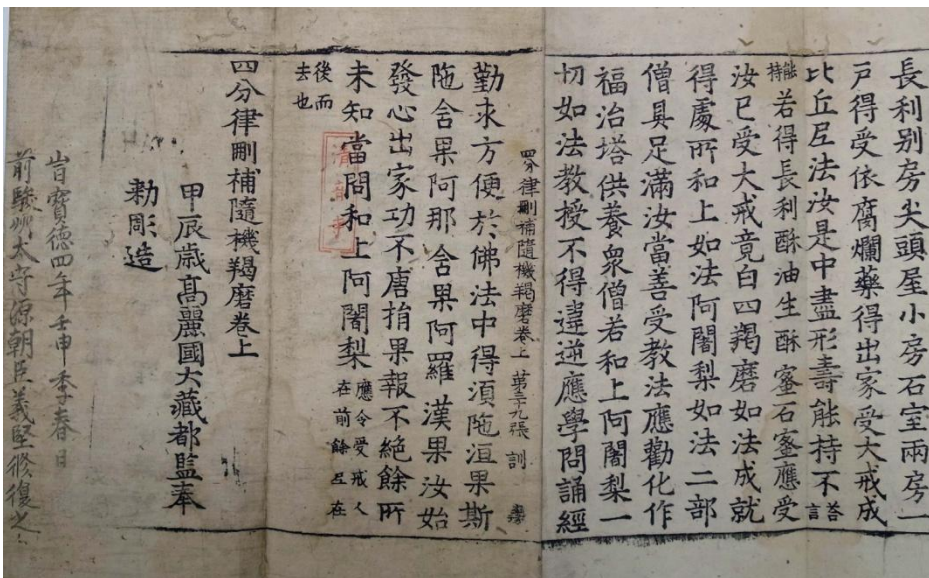


図 4 高麗再彫本



〈金版藏經〉

金・皇統9年(1149)頃 尼僧崔法珍発願 山西省解州の天寧寺で開版  
 大定18年(1178) 金朝廷に一蔵献上 版木を北京弘法寺に移管 印刷・補刻  
 総数 682函6900余巻  
 呼称 金版藏經・解州天寧寺金蔵  
 民国23年(1934) 山西省趙城県の広勝寺で発見 →趙城蔵・趙城金蔵  
 体裁 卷子本 版式每版23行 行14字 千字文帙号『開元釈教録略出』より一字繰り上げ  
 底本 開宝蔵系統 遼代の章疏を収録 元代に弘法寺で印刷された經典含む  
 版木 元代まで伝存・印刷  
 所蔵 北京図書館  
 目録 蔡念生編『宋蔵遺珍叙目・金蔵目錄校積合刊』(新文豊出版社、1976年10月)  
 景印 『影印宋蔵遺珍』全120冊(影印宋版藏經会・三時学会、1935年) \*古佚の章疏・史伝・經録  
 『趙城金蔵』全122冊(北京図書館出版社、2008年1月)

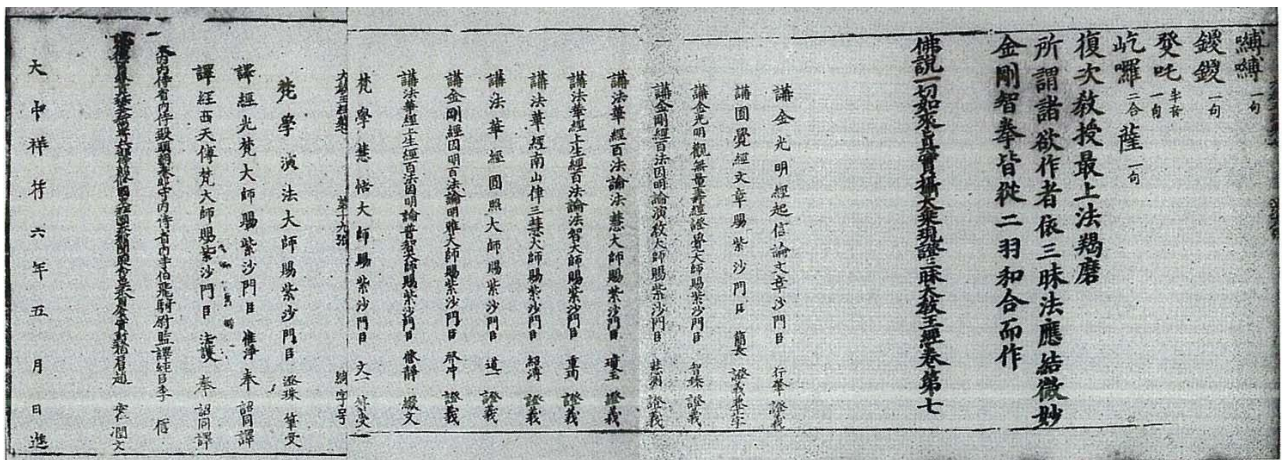


図5 金版藏經

その他宋版大蔵經 東禪寺版藏經・開元寺版藏經・思溪版藏經・磧砂版藏經

⇒江南地方の經濟力を背景にした私版大蔵經 →周辺諸国に流通 仏教文化の伝播・發展に貢献

〈東禪寺版藏經〉

元豐3年(1080)～政和2年(1112) 慧空大士冲真ら発願 福建省福州の東禪等覺院で開版  
 紹興18年(1148) 版木の重修・補刻  
 乾道淳熙間(1165～1189) 大慧語録・楞嚴義海・天台三大部等16函追彫  
 総数 580函6108巻  
 体裁 折本 版式每版30行・36行 行17字 每半折6行 千字文帙号『開元釈教録略出』に一致  
 卷首に数行の刻蔵題記あり 字函ごとに音釈1帖を付す  
 崇寧2年(1103) 徽宗「崇寧万寿大蔵」賜名 勅版藏經に準ずる扱い  
 呼称 東禪寺版藏經・崇寧蔵  
 印經活動 元代に及ぶ  
 目録 『福州東禪大蔵經目錄』1巻 昭和法宝 no.47  
 『宮内省図書寮一切經目錄』1巻 昭和法宝 no.6

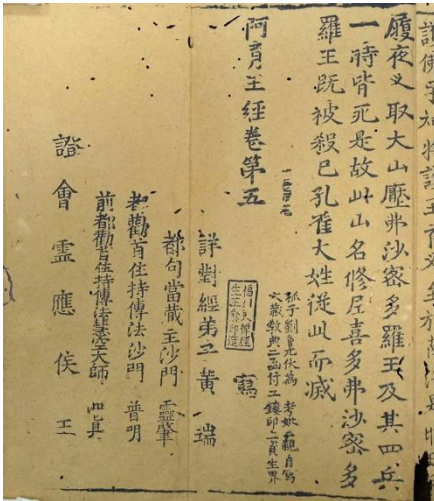


図 6 東禪寺版藏經

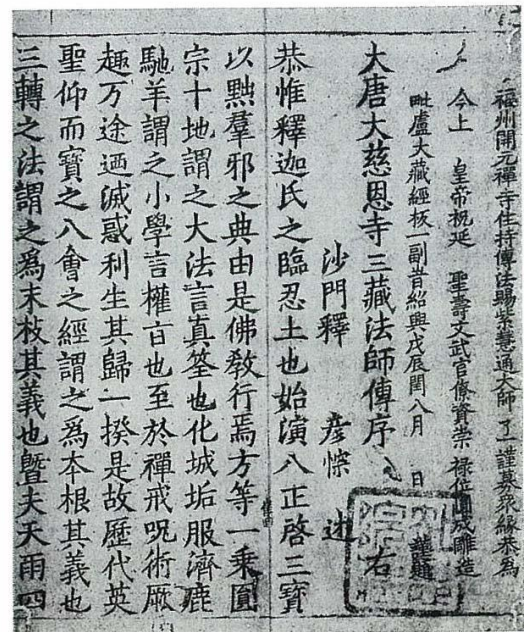
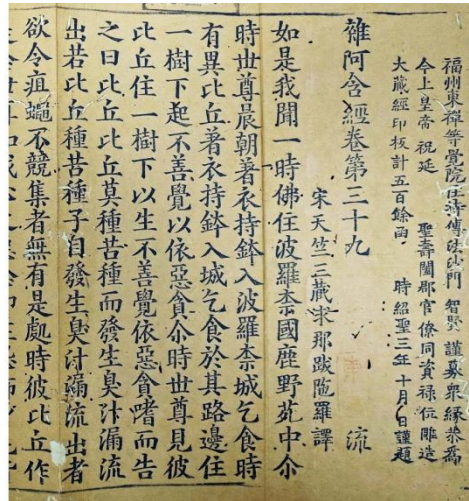


図 7 開元寺版藏經

〈開元寺版藏經〉

政和 2 年(1112) 本明禪師發願 福建省福州の開元禪寺で開版

紹興 21 年(1151)完成

隆興 2 年(1164)・淳熙 3 年(1176) 続刻

総数 595 函 6132 卷

呼称 開元寺版藏經・毘盧大藏經

体裁 折本 版式每版 30 行 行 17 字 每半折 6 行 東禪寺版藏

經よりやや小ぶり 音積なし

千字文帙号『開元釈教録略出』に一致 卷首に数行の刻藏題記あり

印経活動 元・大徳年間 (1297~1307) に及ぶ

日本への伝来 日宋・日元貿易により多数の福州版が伝来

多くは東禪・開元二蔵の混合版

目録 『唐本一切経目録』3 卷 昭和法宝 no.48

〈思溪版藏經〉

北宋末期 王永從・王永錫兄弟等王氏一族の浄財 浙江省湖州思溪の円覚禪院で開版 紹興 2 年(1132)完成

総数 550 函

呼称 思溪版藏經・湖州版藏經

全蔵中わずか 2 箇所 (卷末) に紹興 2 年刻藏題記あり

目録 『湖州思溪円覚禪院新彫大蔵経目録』1 卷 昭和法宝 no.46

南宋中期 王氏一族没落 → 印刷活動停滞

淳祐年間(1241~1252) 宋室趙氏 円覚禪院復興 版木の補刻(548 函)・続刻 (50 函 24 部 450 卷)

寺格法宝資福禪寺に昇る

呼称 資福蔵

目録 『安吉州思溪法宝資福禪寺大蔵経目録』2 卷 昭和法宝 no.11

『縁山三大蔵目録』3 卷 昭和法宝 no.21

『三縁山輪蔵目録』2 卷 昭和法宝 no.24



版木 蒙古軍侵攻 →灰燼に帰す

呼称の別 円覚禅院時代のもの=思溪版 資福禅寺時代のもの=後思溪版

体裁 折本 版式每版 30 行 行 17 字 每半折 6 行 千字文帙号『開元釈教録略出』に一致

帖末に音釈を付す 原装本 黄色の表紙に書名を墨書 1 帖 1 帙

所蔵 増上寺・輪王寺・喜多院・長谷寺・大谷大学など

〈参考資料〉

元興寺文化財研究所編『豊山長谷寺拾遺第四輯之二 宋版一切経』(総本山長谷寺文化財等保存調査委員会、2011 年 11 月)

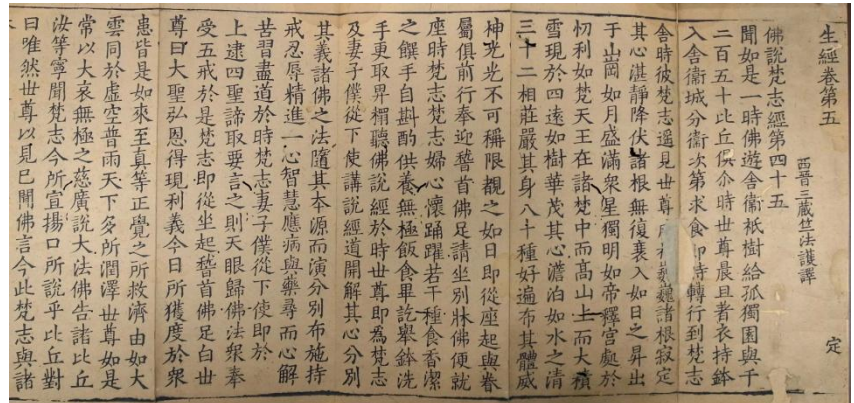


図 8 思溪版蔵経

〈磧砂版蔵経〉

紹定 4・5 年(1231・1232)頃 蘇州磧砂の延聖禅院で開版 宝祐 6 年(1258)大火 →刻蔵事業不振

元代 刻蔵事業の復興 寺格が延聖禅院に昇る

大徳 3 年(1299)頃 大蔵経局設置 追刻事業開始 至治 2 年(1322)完成

総数 591 函 6362 卷

体裁 折本 版式每版 30 行 行 17 字 每半折 6 行 千字文帙号『開元釈教録略出』に一致 卷頭書名の題下に千字文帙号と帖数を刻す 各経卷の末尾に刊記あり

所蔵 西安の臥竜寺・開元寺、山西省太原の崇禅寺で全蔵発見 東洋文庫(零本 24 帖 清音寺旧蔵)

目録 『平江府磧砂延聖院新彫蔵経律論等目録』2 卷 昭和法宝 no.12 \*端平 2 年(1234)刊

『磧砂嘉興大蔵経分冊目録分類目録総索引』(新文豊出版公司、1988 年)

景印 『宋版磧砂大蔵経』全 40 冊 (新文豊出版公司、1987 年)

『磧砂大蔵経 [景印宋元版]』全 120 冊 (中国線装書局、2005 年 5 月)

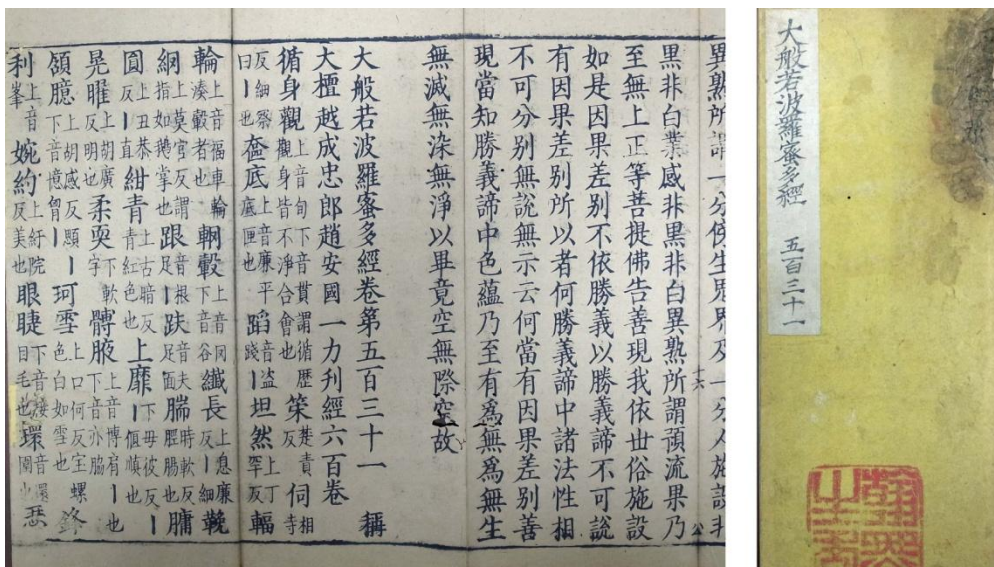


図 9 磧砂版蔵経

元代の刊刻大蔵経

〈普寧寺版蔵経〉

至元 13 年(1277) 白雲宗の僧俗 浙江省杭州の普寧寺で開版 27 年(1290)完成

総数 558 函 6004 卷

呼称 元版蔵経・杭州蔵・普寧寺版蔵経

底本 思溪版蔵経 福州版などで校勘

体裁 折本 版式每版 30 行 行 17 字 每半折 6 行 千字文帙号『開元釈教録略出』に一致

千字文帙号に帖数を付加 原装本 表紙丹色 各経卷の末尾に刊記あり

所蔵 増上寺など

目録 『杭州路余杭県白雲宗南山大普寧寺大蔵経目録』 4 卷 昭和法宝 no.26

『縁山三大蔵目録』 3 卷 昭和法宝 no.21

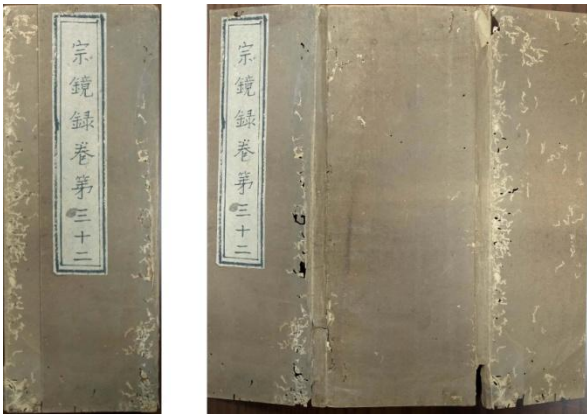
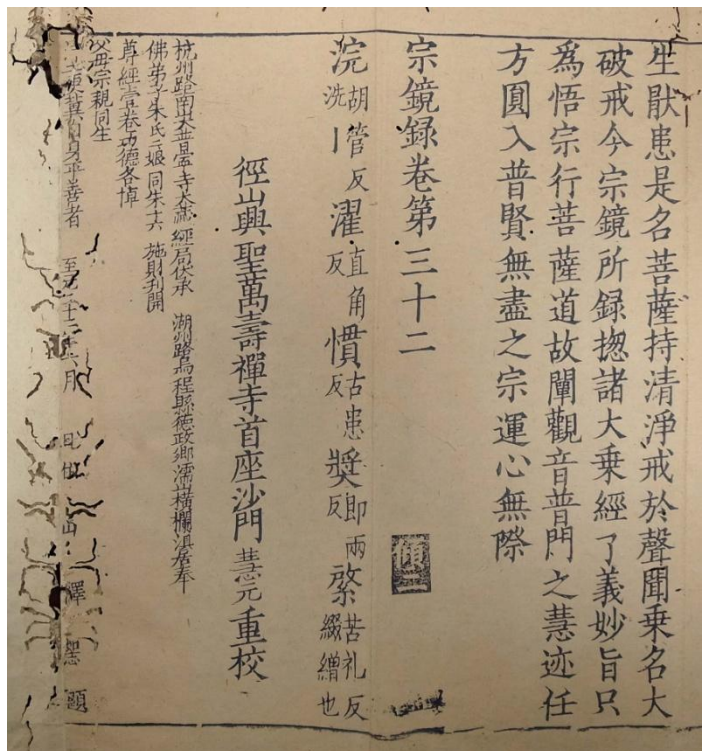


図 10 普寧寺版蔵経



〈宋元刊刻大蔵経の系統〉

竺沙雅章氏の説

第一類蔵経： 開宝蔵・高麗版蔵経・金版蔵経 卷子本 每版 23 行 行 14 字

千字文帙号『開元釈教録略出』より一字繰り上げ

第二類蔵経： 契丹版蔵経・房山石経（遼以後の刻石部分） 每版 27~28 行 行 17 字

千字文帙号『開元釈教録略出』より一字繰り下げ。

第三類蔵経： 東禪寺版蔵経・開元寺版蔵経・思溪版蔵経・磧砂版蔵経・普寧寺版蔵経・元官版蔵経（雲南図書館蔵の 32 卷など）の江南諸蔵経 折本 每版 30 行 行 17 字

千字文帙号『開元釈教録略出』と一致。『開元釈教録略出』は第三類蔵経にのみ入蔵

→『開元釈教録略出』≠智昇の原著 もとは第三類蔵経の現蔵入蔵録として成立

第一類 開宝蔵系統 成都開版 田舎版

第二類 唐代の長安写経の系譜に連なる 最も正統的な写経の系統を受け継ぐ

◎敦煌文獻・奈良朝写経（聖語蔵） 大部分第二類の系統に属す

〈参考資料〉

竺沙雅章「漢訳大蔵経の歴史」（前掲）



【明代の刊刻大藏經】

官版大藏經 3 種 私版大藏經 1 種

〈洪武南藏〉

洪武 5 年(1372) 詔を奉じて南京蔣山寺で開版 建文 3 年(1401) 正藏 591 函完成 続けて諸宗重要典籍の続刻  
 体裁 折本 版式每版 30 行 行 17 字 每半折 6 行 正藏は磧砂版藏經を重刊  
 所蔵 1938 年四川省崇慶県光嚴禪院(上古寺)で発見 四川省図書館蔵

正藏 591 函 1523 部 6369 卷

続蔵 87 函 96 部 877 卷

景印 『洪武南藏』全 242 冊(四川省仏教協会、  
 1999 年 2 月~2002 年) 第 242 冊総目録

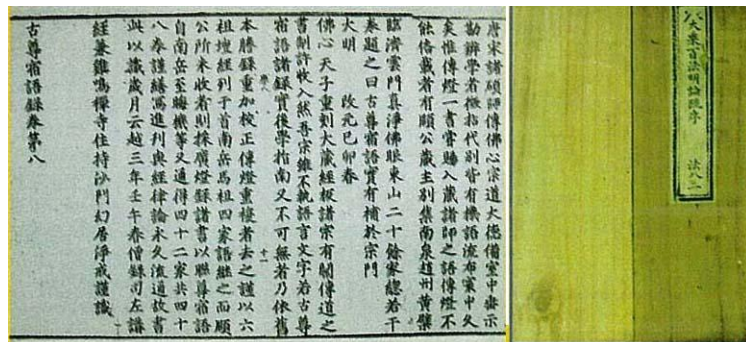


図 11 洪武南藏

〈永樂南藏・永樂北藏〉

永樂南藏

永樂 6 年(1408)頃 洪武南藏の版木(南京城南端聚宝  
 門外の天禧講寺で保管)焼失

永樂 10 年(1412) 天禧講寺再建 大報恩寺と改額  
 詔を奉じて洪武南藏を重刊

至永樂 17 年(1419) 正藏 635 函 6350 卷完成

体裁 折本 每版 30 行 行 17 字 每半折 6 行 千字  
 文帙号に帖数を付加 10 帖 1 帙(函)

洪武南藏の編次を変更 卷数も少ない

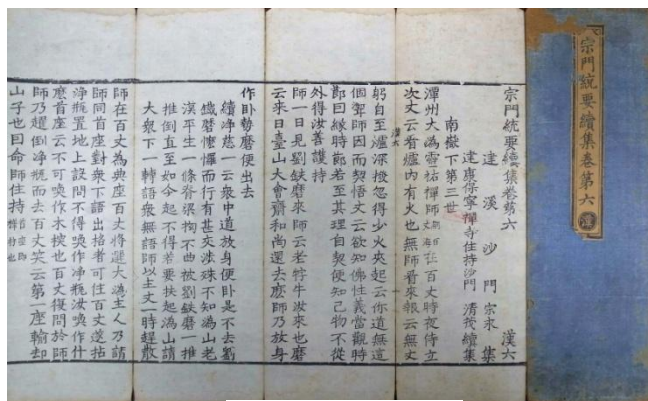


図 12 永樂南藏

永樂北藏

永樂 17 年(1419) 勅を奉じて北京で新たに開版

正統 5 年(1440) 正藏 636 函 6361 卷完成 永樂南藏と出入あり

体裁 折本 版式每版 25 行 行 17 字 每半折 5 行 天地双辺 千字文帙号に帖数を付加 10 帖 1 帙(函)





図 13 永樂北蔵

### 南北兩蔵の続蔵

万暦 7 年(1579) 永樂北蔵の続刻開始 同 11 年(1583)頃 続蔵 41 函完成

万暦 30 年代半ば頃 永樂南蔵の続蔵 41 函完成

南北兩蔵の正蔵 万暦年間までに經典の出入・分函の調整を経て南蔵 636 函・北蔵 637 函となる

→正統合わせて南蔵 677 函・北蔵 678 函の構成で頒布=万暦南蔵・万暦北蔵

### 頒布状況

永樂北蔵 宮中祝崇寺境内の漢經廠に版木を保存 頒布に皇帝の勅許が必要 入手甚だ困難

永樂南蔵 南京大報恩寺で購入希望者に実費頒布 →後に南京の經鋪を通じて販売

經鋪は北蔵の入手難に便乗、南蔵の販売価格を上げ、納期を延滞 →南蔵の入手も困難

所蔵 永樂南蔵 山口県快友寺 5444 帖 立正大学図書館 558 帖

永樂北蔵 成田山仏教図書館 404 帖

### 目録

南蔵 『大明重刊三蔵聖教目録』 3 卷 (『中華大蔵經 (漢文部分)』 第 106 冊所収本)

『南蔵目録』 1 卷 (『金陵梵刹志』 卷 49 所収) 昭和法宝 no.29

北蔵 『大明三蔵聖教目録』 4 卷 『大明統入蔵諸集』 1 卷 『北蔵欠南蔵函号附』 1 卷 昭和法宝 no.27

景印 『永樂北蔵』 全 200 冊 (中国線装書局、2000 年 3 月)

〈参考資料〉

山口県教育委員会文化課編 『快友寺一切經調査報告書』 (山口県教育委員会、1992 年 3 月)

立正大学図書館編 『立正大学図書館蔵明代南蔵目録』 (立正大学図書館、1989 年 2 月)

會谷佳光「成田山仏教図書館蔵明北蔵目録稿」(未刊)

### 〈嘉興版大蔵經〉

万暦元年(1573) 袁了凡居士 方冊形式での大蔵經刊行・流布を發意

万暦 17 年(1589)頃 密蔵道開等 華北の五台清涼山紫霞谷妙徳庵で私版大蔵經の開版開始

万暦 21 年(1593) 開版地 →江南の杭州徑山の興聖万寿禪寺寂照庵へ

版木の保管・印刷 寂照庵 (万暦 38 年 徑山東麓の下院化城巷接待寺へ)

装訂・販売 嘉興府秀水県の楞嚴寺の經房

至崇禎 15 年(1642)頃 正蔵 210 帙 1654 部 6591 卷完成

康熙 5 年(1666) 続蔵 93 帙 287 部 2033 卷追加入蔵

康熙 15 年(1676)頃 又続蔵 47 帙 254 部 1349 卷追加入蔵

総数 正蔵・続蔵・又続蔵 2195 部 10333 卷 『刻蔵縁起』・『大明三蔵聖教目録』・『画一目錄』 3 部 1 函



呼称 嘉興藏・楞嚴寺版藏經・万曆藏・密藏本・徑山藏

体裁 方冊本 版式双边 有界 10行 20字 明朝体

底本 正藏部分は永樂北藏の正藏・統藏 宋元両藏・永樂南藏で校勘 卷末に校譌・音釈・刊記を付す

分類法 天台五時教判に基づく新分類法の創出を計画 まもなく挫折 →北藏の分類を踏襲

\*天台五時教判：隋の天台智顛が説いたもの 釈尊一代の説法を華嚴時・阿含時・方等時・般若時・法華涅槃時の五時に分け、『法華經』を最も重要な教えとする。

明版・明本と呼ばれる由来 嘉興藏の刊行が明代に始まったため →清代も開版・印刷続く

日本への伝来 40~50 蔵 鎌倉光明寺・西蓮社（増上寺の旧山内寺院）などが所蔵

→康熙年間（1662~1722）の刊記を持つ經典を多数含む

目録 『大明三藏聖教目録』4卷 『大明統入藏諸集』1卷 『北藏欠南藏函号附』1卷 昭和法宝 no.27

『藏版経直画一目録』1卷 『統藏経直画一』1卷 昭和法宝 no.28

『磧砂嘉興大藏経分冊目録分類目録総索引』（新文豊出版公司、1988年）

景印 『明版嘉興大藏経』全40冊（新文豊出版公司、1987年）

『嘉興藏』編委会整理『嘉興藏（徑山藏）』全2500冊（民族出版社、2008年1月）

〈参考資料〉

『江南山梅林寺所蔵 典籍・文書総合目録』（江南山梅林寺、2000年4月）「(A) 嘉興大藏経目録」

近江八幡市教育委員会文化振興課『称名寺万曆版一切経調査報告書』（近江八幡市教育委員会、2002年3月）

元興寺文化財研究所編『豊山長谷寺拾遺第四輯之二 明版一切経』（総本山長谷寺文化財等保存調査委員会、2008年5月）

横手裕・末木文美士・渡辺麻里子・菊池大樹監修『東京大学総合図書館所蔵万曆版大藏経 目録と研究』（平成17年度~平成21年度文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成一寧波を焦点とする学際的創生」仏教道交交渉班「宋元明における仏教道交交渉と日本宗教・思想」、2010年9月）

會谷佳光編著『西蓮社（旧三縁山増上寺山内寺院報恩蔵）収蔵嘉興版大藏経目録』（西蓮社、2012年3月刊行予定）

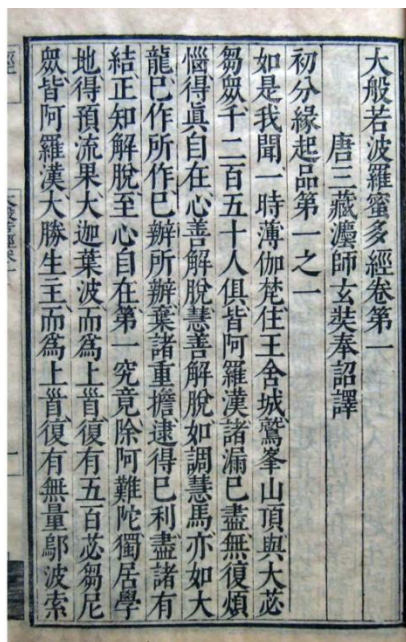


図 14 嘉興藏

### 〈新分類法創出の試み〉

大蔵經の分類法 『開元釈教録』(唐・開元 18 年(730)) の入蔵録を基準 →宋元代まで經典の翻訳続く  
新訳仏典の入蔵 →経蔵の末に「宋元入蔵諸大小乗經」、論蔵の末に「続入蔵諸論」を追加  
→『開元釈教録』入蔵録の枠組み維持

万暦年間 禪の語録や天台宗の經典の増加 →従来分類法では対応しきれず

### 嘉興蔵

天台五時教判に基づく新分類法の創出を計画 →密藏道開の失踪などにより実現せず

#### 『大明釈教彙目義門』

嘉興県の禪僧寂暁 天台五時教判に基づく新分類法 万暦 41 年(1613)頃『大明釈教彙目義門』41 卷完成

1. 華嚴部： 華嚴部の經・論 中国人の注釈
2. 阿含部： 阿含部の經・五分律・論
3. 方等部： 方等部の經・論 中国人の注釈
4. 般若部： 般若部の經・論 中国人の注釈
5. 法華部： 法華部の經・論 中国人の注釈
6. 涅槃部： 涅槃部の經・論 中国人の注釈
7. 陀羅尼部： 密教関係の經・儀軌・論頌 中国人の注釈
8. 聖賢著述： インド諸師の論 中国人の注釈  
インド諸師の伝  
中国人の天台教典・伝記・禪籍

#### 『閲蔵知津』

天台僧智旭 天台五時教判に基づき經録編纂 順治 11 年(1654)『閲蔵知津』44 卷完成

1. 經蔵： 大乘・小乗  
大乘→華嚴・方等・般若・法華・涅槃五部  
方等部→顯説・密呪
2. 律蔵： 大乘・小乗
3. 論蔵： 大乘・小乗  
大乘→釈經論・宗經論・諸論釈(中国人の注釈含む)
4. 雜蔵： 西土撰述・此方撰述  
此方撰述→懺儀・浄土・台宗・禪宗・賢首宗・慈恩宗・密宗・律宗・纂集・伝記・護教・音義  
目録・序讚詩歌・応收入蔵此土撰述

### 〈参考資料〉

『大明釈教彙目義門』41 卷・『大明釈教彙門標目』4 卷・『大明釈教彙門目録』4 卷(『四庫未収書輯刊』第 3 輯(北京出版社、2000 年)所収) \*二松学舎大学付属図書館が明版を所蔵。

『閲蔵知津』44 卷 昭和法寶 no.75

『閲蔵知津：大蔵經導読』(線装書局、2001 年 12 月)

\*他に『明版嘉興大蔵經』第 31・32 冊、『続修四庫全書』第 1290 冊所収

【清代の刊刻大蔵経】

〈乾隆版大蔵経〉

雍正 11 年(1733) 蔵経館開設 翌年 東安門外の賢良寺で校閲・開版 乾隆 3 年(1738)完成

総数 完成時 724 函 1675 部 7240 卷 →至乾隆 34 年(1769)入蔵取消 718 函 1670 部 7167 卷に減

呼称 清版蔵経・乾隆版大蔵経・龍蔵

体裁 折本 每版 25 行 行 17 字 每半折 5 行 天地双边 千字文帙号に帖数を付加 10 帖 1 帙 (函)

分類 北蔵を踏襲

版木 故宮武英殿 →智化寺・房山雲居寺など →北京市文物局

印刷部数 300 部弱 さほど流通せず 龍谷大学蔵本 (西太后が西本願寺に寄贈)

目録 『大清三蔵聖教目録』 5 卷 昭和法宝 no.30

後印 『乾隆版大蔵経』 全 724 函 (文物出版社、1989 年)

縮印 『乾隆大蔵経 (縮微版)』 全 168 冊 (中国線装書局、2011 年 02 月)

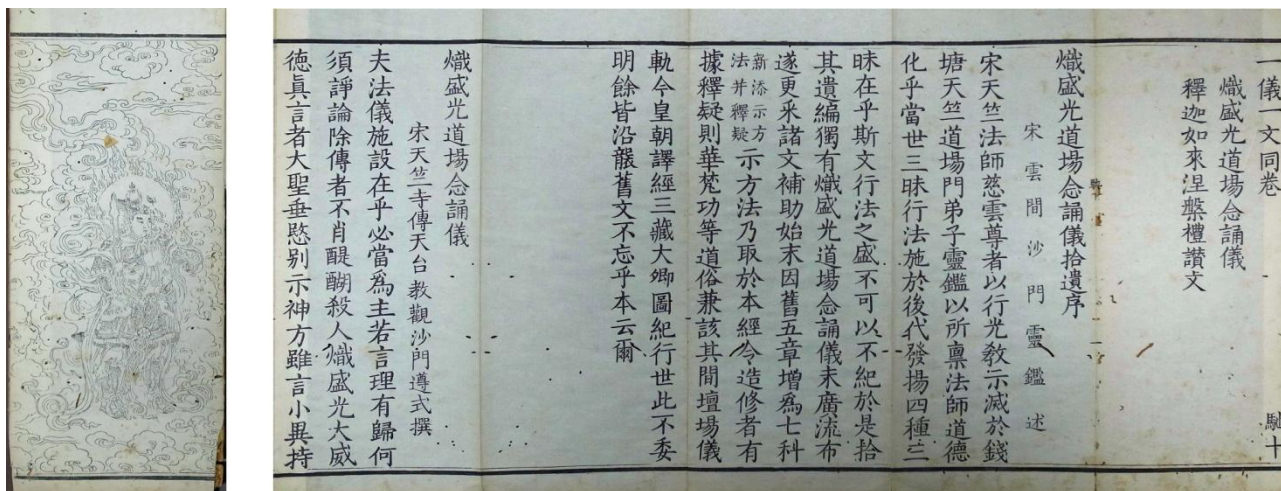
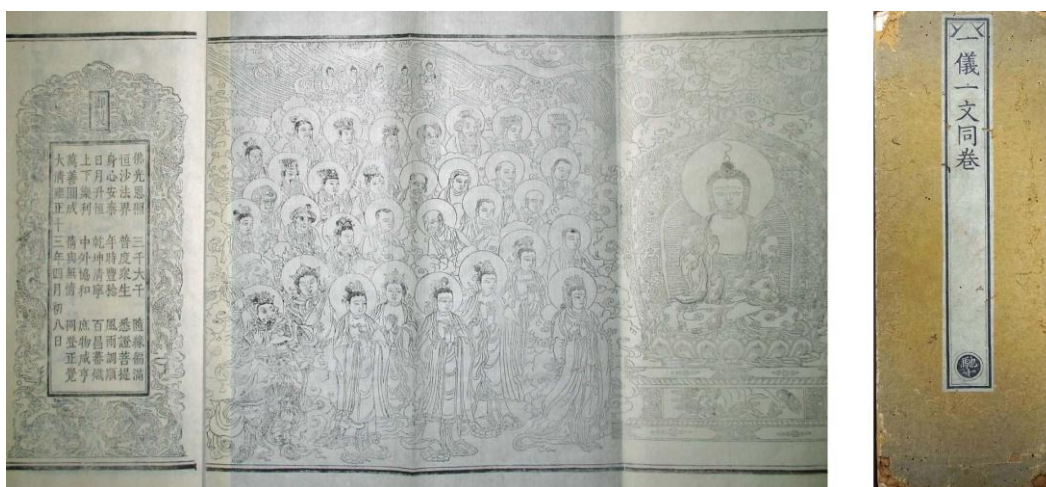


図 15 乾隆版大蔵経



【江戸時代の刊刻大蔵経】

〈天海版大蔵経〉

寛永14年(1637) 天台僧天海の発願 徳川家光援助 東叡山寛永寺に経局設置・開版

寛永20年(1680) 天海没 慶安元年(1648)完成

総数 665 函 1453 部 6323 卷

呼称 天海版大蔵経・天海版・寛永寺版・倭蔵

底本 思溪版蔵経 一部に普寧寺版蔵経・嘉興蔵

体裁 折本(一部方冊本) 1紙24行 行17字 每半折6行 宋朝体の木活字 卷末に刊記あり

天海版木活字 寛永寺に現存

印刷部数 30余部 寛永寺・青蓮院・叡山文庫・身延山大学図書館など

目録 『日本武州江戸東叡山寛永寺一切経新刊印行目録』5巻 昭和法宝 no.31

〈参考資料〉

松永知海編『東叡山寛永寺天海版一切経目録』(仏教大学松永研究室、1999年3月)

研究代表者渡邊守邦『寛永寺蔵天海版木活字を中心とした出版文化財の調査・分類・保存に関する総合的研究：科学研究費基盤研究(A)(1)平成10年-13年度研究成果報告書』(渡邊守邦、2002年)

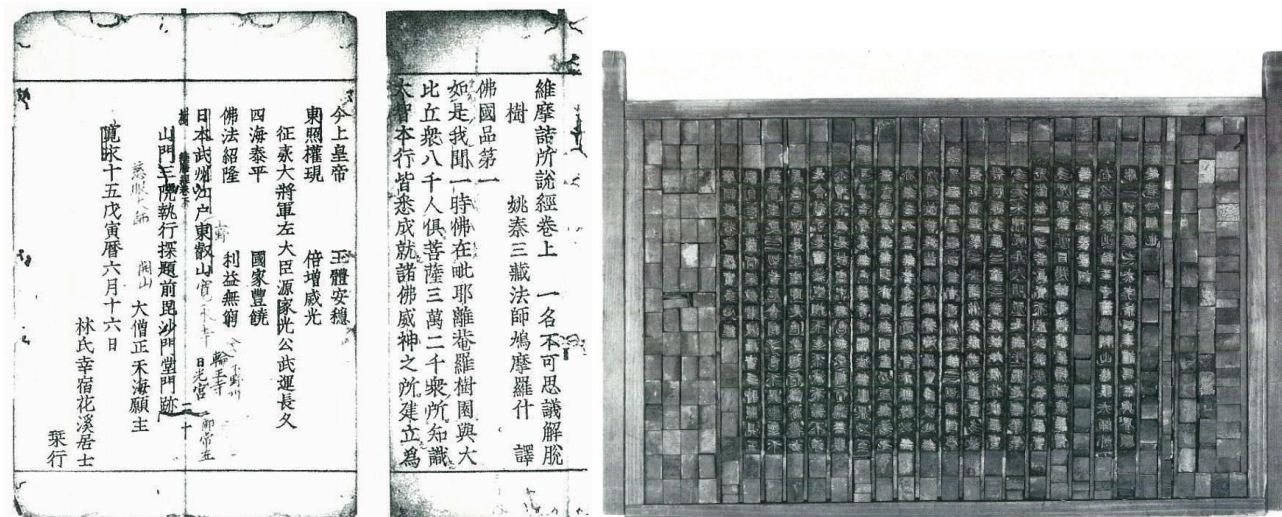


図 16 天海版大蔵経

〈黄檗版大蔵経〉

寛文7年(1667) 黄檗宗鉄眼 黄檗山万福寺宝蔵院建立 私版大蔵経開版 天和元年(1681)完成

総数 1650 余部 6950 余卷

呼称 黄檗版大蔵経・鉄眼版大蔵経・黄檗蔵・檗蔵

底本 嘉興蔵の覆刻本

体裁 版式は嘉興蔵に従うが界線なし まま既存の和刻本を代用した經典(入れ版)もある、次第に嘉興蔵の覆刻本、もしくは版式を嘉興蔵に合わせたものに統一。卷末に刊記あり

初刷本 後水尾上皇に献上 →勅願寺正明寺に下賜(現存)

印刷部数 至明治初年頃 全国約2,000箇所へ納経 国外にも輸出

版木 昭和32年(1957) 重要文化財指定 宝蔵院の収蔵庫で保管

目録 嘉興蔵所収の『大明三蔵聖教目録』4巻『大明続入蔵諸集』1巻『北蔵欠南蔵函号附』1巻の覆刻本を使用

町版は天海版大蔵経(倭蔵)の有無・千字文を附刻

〈参考資料〉

大槻幹郎, 松永知海共編『黄檗版大蔵経刊記集』(思文閣出版、1994年3月)

松永知海編『全蔵漸請千字文朱点』簿による『黄檗版大蔵経』流布の調査報告書』(仏教大学アジア宗教文化情報研究所、2008年3月)

會谷佳光編著『成田山新勝寺一切経堂収蔵黄檗版大蔵経目録』(大本山成田山新勝寺、2010年1月)

會谷佳光「中央研究院傅斯年図書館蔵黄檗版大蔵経目録」(『東洋文庫書報』(41)、2009年3月)

會谷佳光「和刻本『大明三蔵聖教目録』諸本再考」(『東洋文庫書報』(42)、2010年3月)

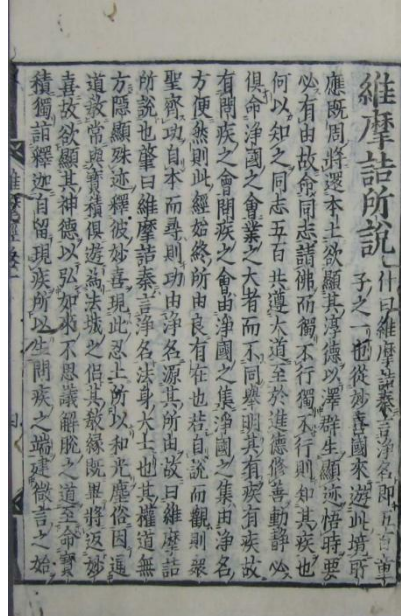


図 17 黄檗版大蔵経

左: 入れ版の版式を定型に改刻

中: 入れ版の一例

右: 嘉興蔵の覆刻



【近現代の大蔵経】

〈縮刷蔵経〉

明治 14 年(1881) 島田蕃根(教部省社寺局)・福田行誠(伝  
通院 64 世 増上寺 70 世)等 弘教書院設立 出版開始

明治 18 年(1885)完成

総数 1916 部 8534 巻 40 帙 418 冊

呼称 日本校訂大蔵経・縮刷蔵経

体裁 方冊本 金属の五号活字を使用

底本 増上寺所蔵の高麗再彫本 思溪版蔵経・普寧寺版蔵  
経・明蔵(黄檗版大蔵経)と対校

分類 明・智旭『閲蔵知津』に拠り 経・律・論・秘密・  
雑の 5 部 25 門に分類

印刷部数 2500 部

目録 『大日本校訂縮刷大蔵経目録』1 巻 昭和法宝 no.33

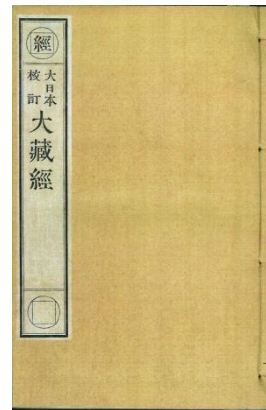
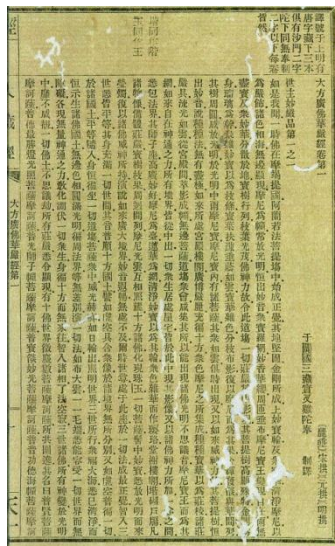


図 18 縮刷蔵経

〈頻伽蔵経〉

宣統 3 年(1911) 宗仰印楞(棲霞山 13 世) ユダヤ人豪商ハットン夫妻援助・章太炎協力 上海に頻伽精舎設立 出版  
開始 民国 9 年(1920)完成

総数 1916 部 8416 巻 40 函 414 冊

呼称 頻伽精舎校刊大蔵経・頻伽蔵経

底本 縮刷蔵経 誤脱の訂正 日本撰述の除外 校異の削除

体裁 四号活字を使用

所蔵 伝本まれ

景印 『頻伽大蔵経』全 100 巻(九州図書出版社、1998 年 10 月)

『頻伽精舎校刊大蔵経』全 80 冊(吉林出版集团有限责任公司、2007 年 5 月)

〈卍字蔵経〉

明治 35 年(1902) 京都に蔵経書院を設立 出版開始

明治 38 年(1905)完成

総数 1622 部 7082 巻 36 套 347 冊

呼称 大日本校訂大蔵経・卍字蔵経

体裁 方冊本 2 段組 四号活字を使用

底本 江戸時代 浄土宗忍叢が高麗蔵経と対校した黄檗  
版大蔵経 全文に句点・訓点を付す

→テキストとしては麗・宋・元・明(槩)四  
本対校の縮刷蔵経に劣る

目録 『大日本校訂蔵経目録』1 巻 昭和法宝 no.34

景印 民国 68 年(1979)~翌年 台北新文豊出版公司

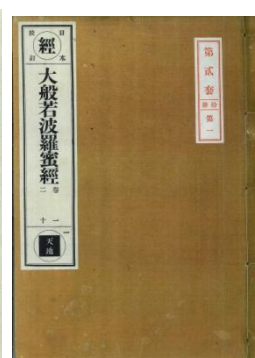
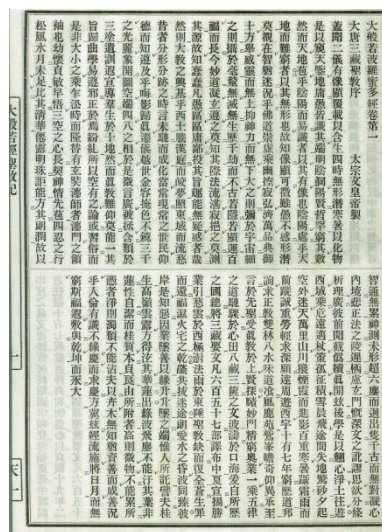


図 19 卍字蔵経

〔卍字統藏経〕

明治 38 年(1905) 前田慧雲・中野達慧 京都の弘経書院

卍字蔵経未収の支那撰述の各宗章疏や禅籍の出版開始

大正元年(1912)完成

総数 1757 部 7148 卷 150 套 751 冊

呼称 卍大日本統藏経・卍字統藏経・卍統藏

体裁 方冊本 2 段組 四号活字を使用 全文に句点・訓点を付す

収録内容 黄檗蔵所収の北蔵続入蔵經典 40 部 嘉興蔵の統藏・又統藏 古写本など

→中国仏教の一大仏典叢書

目録 『靖国紀念大日本統藏経目録』 2 卷 昭和法宝 no.35

景印 中国・台湾計 5 回

- (1) 民国 9 年(1920)(一説に 12 年(1923)) 上海商務印書館
- (2) 民国 14 年(1925) 上海涵芬楼
- (3) 1967~1969 年 香港仏教会影印蔵経委員会・竜門書店
- (4) 民国 56 年(1967) 台北・中国仏教会影印卍統藏経会
- (5) 民国 66 年(1977) 台北・新文豊出版公司

縮印 『新纂大日本統藏経』 全 90 冊 (国書刊行会、1975 年~1989 年)

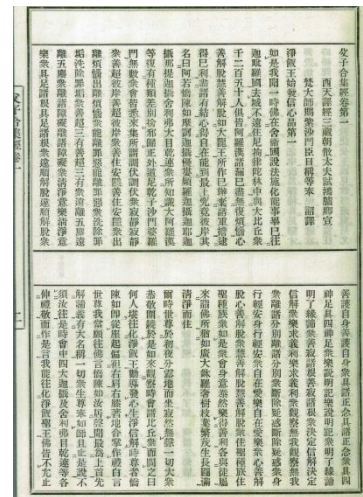
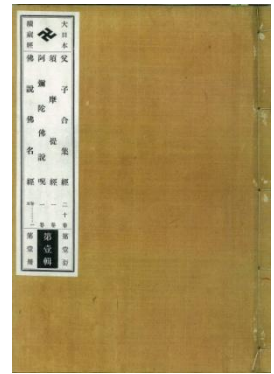


図 20 卍字統藏経

〔大正新脩大蔵経〕

大正 11 年(1922) 高楠順次郎・渡辺海旭都監 大正一切経刊行会設立

毎月 1 卷刊行

昭和 4 年(1929) 正蔵 55 卷完成 昭和 7 年(1932) 続蔵 30 卷完成

大蔵出版株式会社設立

至昭和 9 年(1934) 昭和法宝総目録 3 卷・図像部 12 卷完成

総数 全 100 冊 3493 部 13520 卷

呼称 大正新脩大蔵経・大正蔵

体裁 洋装本(方冊本は特製) 3 段組 1 段 29 行 17 字 全文に句点を付す

底本 増上寺所蔵の高麗再彫本

校本 宋本・元本・明本、正倉院の聖語蔵、宮内省図書寮の東禅寺版蔵経、個人・大学図書館の所蔵本

大英博物館・フランス国立図書館所蔵の敦煌文献など

→善本大蔵経 世界中に流布 仏教研究のスタンダードテキストとしての地位を確立

問題 刊行を急ぎ誤植が多い 句点・校異に縮刷蔵経の踏襲が多く過誤甚だし 底本・校本の多くが容易困難など

再刊 昭和 35 年(1960)~54 年(1979) 洋装本のみ 誤字脱字等の訂正 対校本の追加など

昭和 63 年(1988)~平成 3 年(1991) ソフトカバーの普及版



図 21 大正蔵



目録 『大正新脩大藏經総目録』他9種 昭和法宝 no.1~5、39~43

『大正新脩大藏經目録』(大蔵出版、1969年9月改訂新版)

景印 台湾2回

(1) 民国44年(1955)~翌年 台北・仏教文化館

(2) 民国62年(1973) 台北・新文豊出版公司 「大正原版大藏經」

〈参考資料〉

大正新脩大藏經刊行会編『大正新脩大藏經会員通信合本』(大蔵出版、1993年3月)

宮内庁正倉院事務所編集『宮内庁正倉院事務所所蔵「聖語藏經卷」』CD-R/DVD

第1期 隋・唐経編、第2期 天平十二年御願経、第3期 神護景雲二年御願経

\* 『正倉院御物聖語蔵一切経目録』2巻 昭和法宝 no.13

### 〈大正新脩大藏經索引〉

大正蔵完成後 仏教系6大学(大谷・駒沢・高野山・大正・立正・龍谷) 索引作成

平成2年(1990) 全45巻50冊完成

### 〈大正蔵のテキストデータベース〉

大正新脩大藏經テキストデータベース (SAT) <http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/>

CBETA 中華電子仏典協会 <http://www.cbeta.org/index.htm>

### 〈普慧大藏經〉

民国33年(1944) 上海祖界 發起人盛幼盒居士(法名普慧)

普慧大藏經刊行会設立 出版開始

翌年 58部81冊刊行 活動停止 → 「民国増修大藏經」と改名

出版継続 55部18冊・『概略・目録』1冊刊行

至民国44年(1955) 国共分裂の影響で自然消滅

版式 毎頁16行41字 宋朝体四号活字を使用

収録経典 南伝大藏經の漢訳 歴代藏經未収の新発見の孤本・善

本 → 精密な校勘を加えた良質のテキスト

所蔵 完本ほとんど伝存せず

後印 1999年 金陵刻経処が旧版を整理 全21函100冊刊行

目録 『普慧藏經刊行会校印大藏經第一期単行本目録』

『民国増修大藏經会出版大藏經第一期単行目録』(民国増修大藏經会、1946年)

景印 『普慧大藏經』全42冊(中国書店、2007年9月)

### 〈中華大藏經(台湾版)〉

民国43年(1954) 桃園大溪の斎明寺 屈文六居士発願 45年(1956)修訂中華大藏經会設立

民国51年(1962)出版開始 57年(1968)『中華大藏經』首編2冊刊行 63年(1974)予約募集

構成

第一輯: 磧砂版藏經・宋藏遺珍の景印

第二輯: 嘉興蔵の正蔵・続蔵・又続蔵・未入蔵本の景印 但し第一輯所収分を除く

第三輯: 卍字蔵經・卍字続蔵經の景印 但し第一・二輯所収分を除く

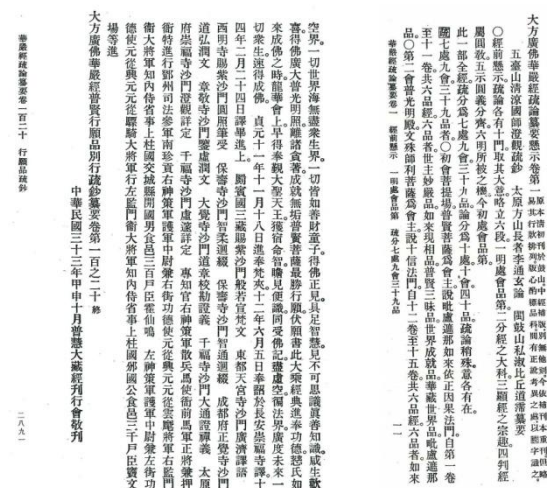


図 22 普慧大藏經



第四輯： 13種の蔵経の中から第一～三輯、及び新編の続蔵に未収録のものを全て収録

＊13種の蔵経とは、東禪寺版・思溪版・南蔵・龍蔵・天海版・縮刻・頻伽・大正の蔵経8種、及び宋・惟白『大蔵經綱目指要録』13巻、宋・王古『大蔵聖教法宝標目』10巻、元・慶吉祥『至元法宝勘同総録』10巻、明・寂暁『大明釈教彙目義門』41巻、明・智旭『閱蔵知津』44巻の経録5種のこと

続蔵： 歴代蔵経未収の經典を収録

訳蔵： 欧訳・漢欧対訳の經典を収録

総目録： 中華大蔵経総目録（首編）、基本目録、関連目録、参考目録の四類

目的 近代の日本人校訂の各種大蔵経に匹敵するものを編纂しようと、中国仏教界の有識者が総力を結集

→第三輯（又続蔵）刊行途中で事業が頓挫

### 〈中華大蔵経（大陸版）〉

1982～1994年 国家古籍整理計画の重点項目 『中華大蔵経（漢文部分）』編集 中華書局刊行

総数 全106冊1937部10230余巻

底本 趙城金蔵を景印 房山石経・思溪版蔵経・影印宋碇砂蔵経・普寧寺版蔵経・永樂南蔵・嘉興蔵・龍蔵・高麗再彫本と校勘 各巻末に校勘記を付す 趙城金蔵の欠佚は高麗再彫本で補填・補鈔

歴代蔵経の中から趙城金蔵未収の經典を採録したものも多い

約340部3170余巻

続編 正編全106冊刊行後 続編刊行予定

房山石経、嘉興蔵の続蔵・又続蔵、頻伽蔵、普慧蔵、卍字続蔵径、大正蔵等を収録予定

→國務院古籍小組の責任者交替などにより中止

目録 中華大蔵経編輯局編『中華大蔵経総目』（中華書局、2004年1月）

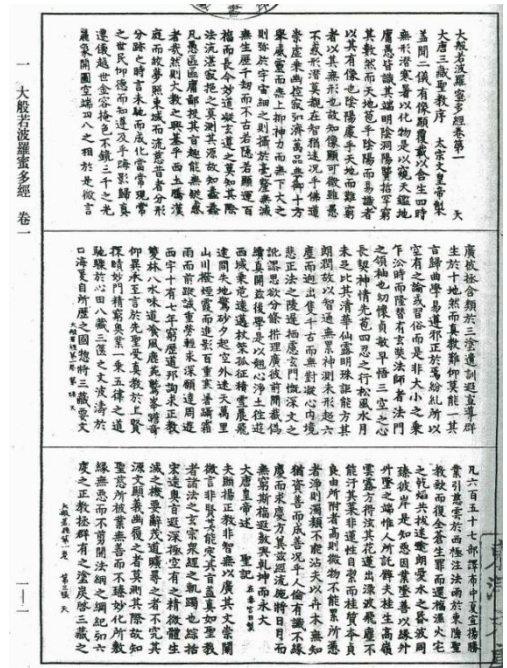


図 23 中華大蔵経（大陸版）

大般若波羅蜜多經卷第一	校勘記
底本、麗藏本。	
一頁上二行「大唐三蔵聖教序 太宗皇帝製」	「圖作」
唐三蔵聖教序 御製」	「對作」
珠起聖道經前、	「圖作」
教序 唐太宗皇帝製、	「圖作」
「貞觀三蔵聖教序 唐太宗皇帝製」	此序前、
御製重刊蔵經序（雍正十三年二月初一日）。	
一頁上三行「禮贊以、	「圖作」
禮以」。	
一頁上四行、八行「形、	「圖作」
則」。	
一頁上六行「苞、	「圖作」
一頁中五行「法師者法門、	「圖作」
一頁中一行「二頁上一九	「圖作」
行抽、	「圖作」
一頁中一九行「鹿苑、	「圖作」
一頁中一九行「鹿苑、	「圖作」

### 10. 大蔵経の中から仏教典籍を探す方法

蔡運辰『二十五種蔵経目録対照考釈』（新文豊出版公司、1983年12月）

童瑋編『二十二種大蔵経通檢』（中華書局、1997年7月）

『大正蔵・中華蔵(北京版)対照目録』（国際仏教学大学院大学附属図書館、2004年3月）

『大正蔵・敦煌出土仏典対照目録：ロシア科学アカデミー東洋学研究所 Санкт-Петербург 支所 フランス国立図書館所蔵仏典』（国際仏教学大学院大学附属図書館、2006年1月）

『日本現存八種一切経対照目録』（国際仏教学大学院大学学術フロンティア実行委員会、2006年3月）

仏教蔵経目録數位資料庫（中華仏学研究所・中華電子仏典協会） <http://jinglu.cbeta.org/>

## 11. 大蔵經の収蔵庫

収蔵庫の呼称 經藏・經堂・經樓・經庫・藏經樓

回転式の經藏 輪藏・転輪藏 梁・傅翕（傅大士）の創始

1回転で大蔵經全經典の読誦と同じご利益があると信仰を集めた

宋・開宝藏の流布とともに盛んとなる

日本 七堂伽藍の一つとして主に輪藏形式で発達

増上寺の三大藏（宋・元・麗三本）を納める經藏

成田山新勝寺の黄檗版大蔵經を納める一切經堂

## 附録：レジュメ本文挿図一覧

### 【レジュメ本文挿図】

- 1 房山石経 出典：中国仏教協会・中国仏教図書文物館編『房山石経』（華夏出版社、2000年5月）第1冊 p.1
- 2 開宝蔵 出典：『仏本行集経』巻19（昭和10年東京大蔵出版株式会社用京都南禅寺蔵開宝蔵本景印）
- 3 高麗初彫本 出典：東京国立博物館、京都国立博物館、朝日新聞社編集『南禅寺：亀山法皇七〇〇年御忌記念』（朝日新聞社、2004年1月）p.122
- 4 高麗再彫本 出典：東洋文庫本
- 5 金版蔵経 出典：大蔵会編『大蔵経：成立と変遷』（百華苑、1964年11月）p.40-41
- 6 東禅寺版蔵経 出典：東洋文庫本（中村菊之進氏寄贈）
- 7 開元寺版蔵経 出典：大蔵会編『大蔵経：成立と変遷』（前出）p.48
- 8 思溪版蔵経 出典：東洋文庫本（中村菊之進氏寄贈）
- 9 磧砂版蔵経 出典：東洋文庫本（中村菊之進氏寄贈）
- 10 普寧寺版蔵経 出典：東洋文庫本（中村菊之進氏寄贈）
- 11 洪武南蔵 出典：李富華・何梅著『漢文仏教大蔵経研究』（宗教文化出版社、2003年12月）口絵
- 12 永楽南蔵 出典：東洋文庫本（中村菊之進氏寄贈）
- 13 永楽北蔵 出典：成田山仏教図書館本
- 14 嘉興蔵 出典：酉蓮社本
- 15 乾隆版大蔵経 出典：扉絵・御製偈・韋駄天像 成田山仏教図書館本、本文 東洋文庫本（中村菊之進氏寄贈）
- 16 天海版大蔵経 出典：本文 東洋文庫日本研究委員会編纂『岩崎文庫貴重書書誌解題』III（東洋文庫、2000年3月）p.11、天海版木活字 『研究代表者渡邊守邦『寛永寺蔵天海版木活字を中心とした出版文化財の調査・分類・保存に関する総合的研究：科学研究費基盤研究(A)(1)平成10年-13年度研究成果報告書』（渡邊守邦、2002年）p.139
- 17 黄檗版大蔵経 出典：嘉興蔵の覆刻・入れ版 成田山新勝寺本、入れ版の版式を定型に改刻 上越教育大学本
- 18 縮刷蔵経 出典：東洋文庫本
- 19 卍字蔵経 出典：東洋文庫本
- 20 卍字続蔵経 出典：東洋文庫本
- 21 大正蔵 出典：東洋文庫本（初版、和装本）
- 22 普慧大蔵経 出典：藍吉富主編『大蔵経補編』（華宇出版社、1984年10月）第2冊 p.11・第5冊 p.2891
- 23 中華大蔵経（大陸版） 出典：中華大蔵経編集局『中華大蔵経（漢文部分）』（中華書局、1983年）第1冊 p.1・p.9

### 【講義で使用した資料】

- 1 駒沢大学図書館編『新纂禅籍目録』全2冊（駒沢大学図書館、1962-1964年）p.1
- 2 柳田聖山「禅籍解題」 花園大学国際禅学研究所ホームページ [http://iriz.hanazono.ac.jp/frame/data\\_f00.html](http://iriz.hanazono.ac.jp/frame/data_f00.html)
- 3 小野玄妙編『仏書解説大辞典』全12冊（大東出版社、1935-1937年）第1巻 p.1
- 4 水野弘元〔ほか〕編『仏典解題事典』（春秋社、1977年9月）p.175
- 5 鎌田茂雄〔ほか〕編『大蔵経全解説大事典』（雄山閣出版、1998年8月）p.3
- 6 高麗大蔵経 Knowledgebase [http://kb.sutra.re.kr/ritk\\_eng/index.do](http://kb.sutra.re.kr/ritk_eng/index.do)
- 7 大正新脩大蔵経テキストデータベース（SAT） <http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/>
- 8 CBETA 中華電子仏典協会 <http://www.cbeta.org/index.htm>
- 9 歴代刻蔵地域図（蔡運辰『二十五種蔵経目録対照考釈』（新文豊出版公司、1983年12月）所収）
- 10 蔡運辰『二十五種蔵経目録対照考釈』（前出）p.1
- 11 仏教蔵経目録数位資料庫（中華仏学研究所・中華電子仏典協会） <http://jinglu.cbeta.org/>